

シラバス詳細

タイトル「2024年度シラバス」、カテゴリ「経済経営学類」

科目情報

< 3 / 5件 >

科目名

Path to CEFR C1 VI

講義名

Path to CEFR C1 VI

クラス

担当教員

何 敏(r447@ipc.fukushima-u.ac.jp)

実務経験のある教員による講義

学年

2年、3年、4年

キャンパス区分

金谷川キャンパス

開講学期

後期

開講時期

(後期)

曜日・時限

金 3

講義室

講義室未設定

科目種別

通常講義(学類)

ナンバリング

z0300300

科目区分

自由領域科目(学類)

単位区分

自由

単位数

2

準備事項**備考****特修プログラム****直接参照URL**

https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047340159233&formatCD=1

授業方法

講義、演習、実技、グループワーク、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報

授業概要とねらい

本授業は、CEFR C1レベルを目標とするアカデミック英語の4技能のスキルアップを目指すPath to CEFR C1科目群の3つ目です。幅広いジャンルの素材の長文（CEFR C1レベル）を、音読や、サイト・トランスレーション、要約など日英通訳訓練法を用い、比較の観点から両言語の語彙、文法、論理構造などへの理解を深められるよう日本語による解説やディスカッションを行います。英語を「ことば」として分析し、アカデミックリテラシーとの関係性に気付かせ、発音や語彙、文法など高校まで習得した知識を大学の文脈で体系化することにより、主体的な取り組みにつなげていきます。具体的には、IELTSテストに求められる4技能の強化を図ります。

単位認定基準

1. 通訳訓練法により、培われる音読やサイト・トランスレーション、言い換え、要約などの力がアカデミック英語とどのように関係するかについて理解できる。
2. 日英両言語の数字のクイック・リスポンスとサイト・トランスレーションを社会生活などで実践できる。
3. 語彙の言い換え、コーロケーションの吟味及び文書の要約を習慣的に行える。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 Preservation 1 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第3回 Preservation 2 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第4回 Design 1 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第5回 Design 2 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第6回 Business 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第7回 Psychology 1 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第8回 Psychology 2 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用；中間まとめ

第9回 Careers 1 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第10回 Careers 2 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第11回 Health Sciences 1 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第12回 Health Sciences 2 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第13回 Collaboration 1 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第14回 Collaboration 2 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用

第15回 振り返り、成果・課題の発表

* 授業内容に変更が生じた場合は随時説明します。

授業計画（週形式）

教材・教科書

Fiona Aish, Jo Tomlinson & Jan Bell: 「Expert IELTS Band 7.5 Student Book」 (Pearson Education ESL)

参考図書

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

- ・各回のテーマに関係する語彙の発音や、言い換え、文法を、文脈のなかでの活用を調べ、予習しておくこと。
- ・授業で配布された資料や授業中にとったメモを参考にして、授業内容の復習を行い、「パラパラめくる」単語帳を作成すること。
- ・IELTS Academic 問題集の問題に取り組み、定期的に自身の学習成果と課題を整理すること。
- ・単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

出席・授業中の活動：60%
授業内課題・小テスト：20%
評価レポート：20%

成績評価の基準

- S: 単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果を上げた (90~100点)
- A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果を上げた (80~89点)
- B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果を上げた (70~79点)
- C: 単位認定基準を満たす最低限の学修成果を上げた (60~69点)
- F: 単位認定基準の学修成果をあげられなかった (~59点)

オフィスアワー

申し出に応じて対応します。授業時やメールによる連絡などを利用して、事前にアポイントメントを取って下さい。

授業改善・工夫

留意点・注意事項

本授業は、日本語で行われます。留学生はN3以上の日本語力が必要です。

教員の実務経験の有無

全国通訳案内士有資格者；法廷通訳及び通訳研修講師の経験有。